

新年のご挨拶

NPO法人理事長 伊藤勝陽

新年あけましておめでとうございます。

コロナは二冬も続き収束の気配も見当たりませんが、幸いにも尾道地域の感染者は医師会・保健所・急性期病院・行政とで構成されたウェブ会議により尾三医療圏全体に方向性を示されたお陰で医療崩壊来すことなく無事過ぎてまいりました。

ところでNPO(2011年設立)は昨年設立十周年を迎えることが出来ました。ここ数年の主たる事業は尾道市医師会方式のICT化にかかわるものでした。記念会こそできませんでした。代わりに尾道市医師会方式へのオマージュとして学研ナーシングサポートから「尾道市医師会方式の医療と介護連携」の表題で講義配信型e-ラーニングを出しました。この3月で閲覧は終了いたしますがもし興味あればご覧ください。有料です。

「伊藤勝陽：尾道市医師会方式の医療と介護連携～看護職を中心とした地域医療連携～
講義配信型e-ラーニング 学研ナーシングサポート 入退院支援・地域包括ケアコース。
(配信期間：2021年7月1日～2022年3月31日)」

またID-Linkのface sheetが電子カルテとして利用できることを平成30年(2018年)に埼玉で開催された老健学会で報告、令和元年から3年(2019～2022)までは尾道市医師会の老健施設「やすらぎの家」での認知症と生活習慣病との関連について、さらに老健から病院へ入院となった原因などについて介護施設のデータを可視化することに取り組み(老年学会投稿中)、急性期病院でのDPCの様に介護施設での参考にすべき指標の作成を目指したいと思っています。

天かけるネットをコロナ禍で利用することで利用者・患者のために役立つと昨年の4月からこの3月まで尾道市医師会広報に連載中です。

さて、今年は寅年、それも「みずのえとら」。みずのえ(壬)は妊婦の妊の字の一部で「はらむ」「うまれる」、寅は演の字を由来とし「人の前に立つ」、延と同じ読みから「延ばす・成長する」という意味を持つのだそうです。この二つが組み合わさって「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」という縁起の良い年です。心にゆとりを持ちこの1年をお過ごしいただければと思います。